

恵山の火山活動解説資料（令和8年7月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～②）

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図2-③～④）

火山性地震は少なく低調に推移していましたが、8月5日から6日朝（期間外）にかけて火口原付近を震源とする地震が一時的に増加しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図2-⑤）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。



図1 恵山 南西側から見た山頂部の状況（高岱監視カメラによる）

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

今回の火山活動解説資料（令和8年8月分）は令和8年9月8日に発表する予定です。

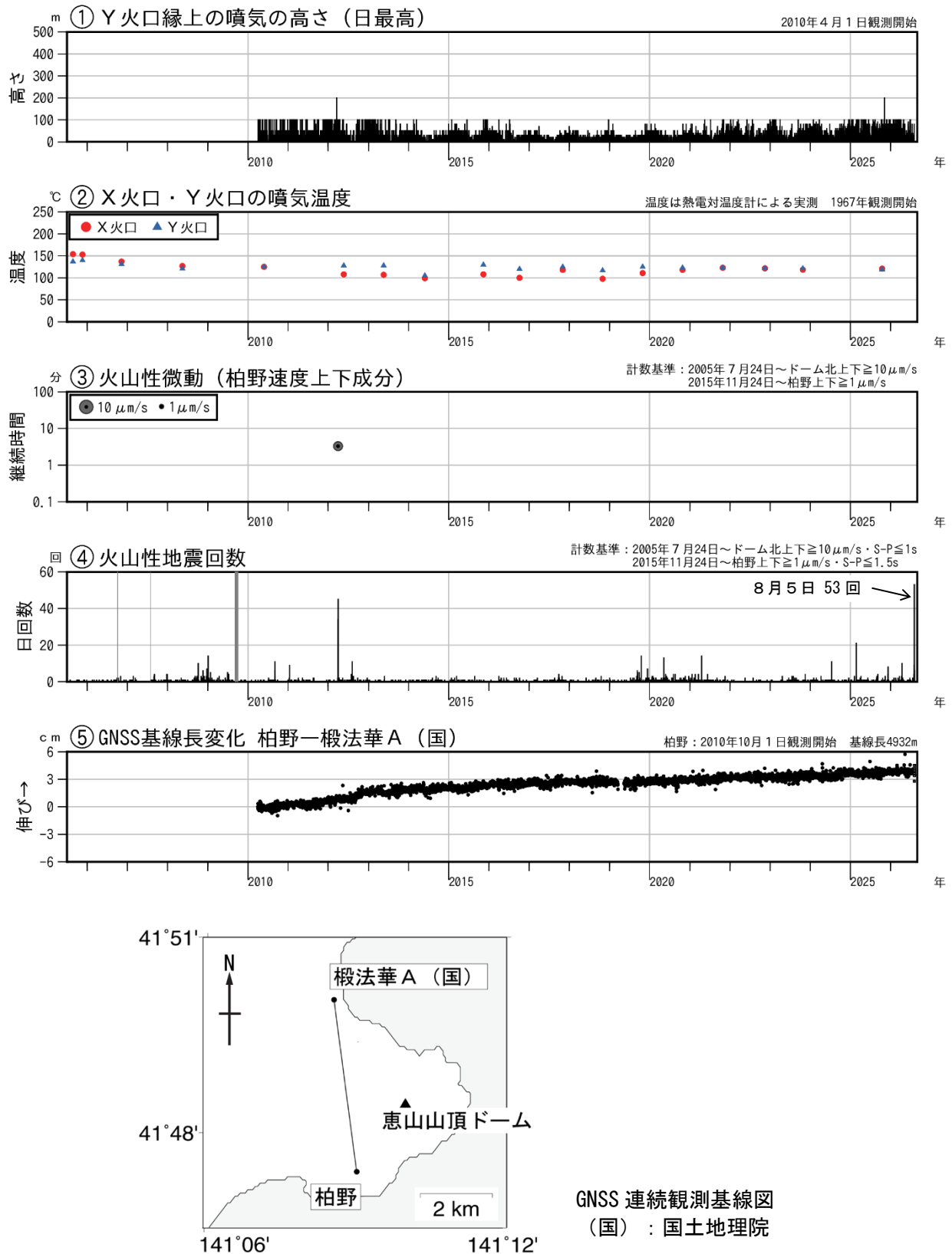


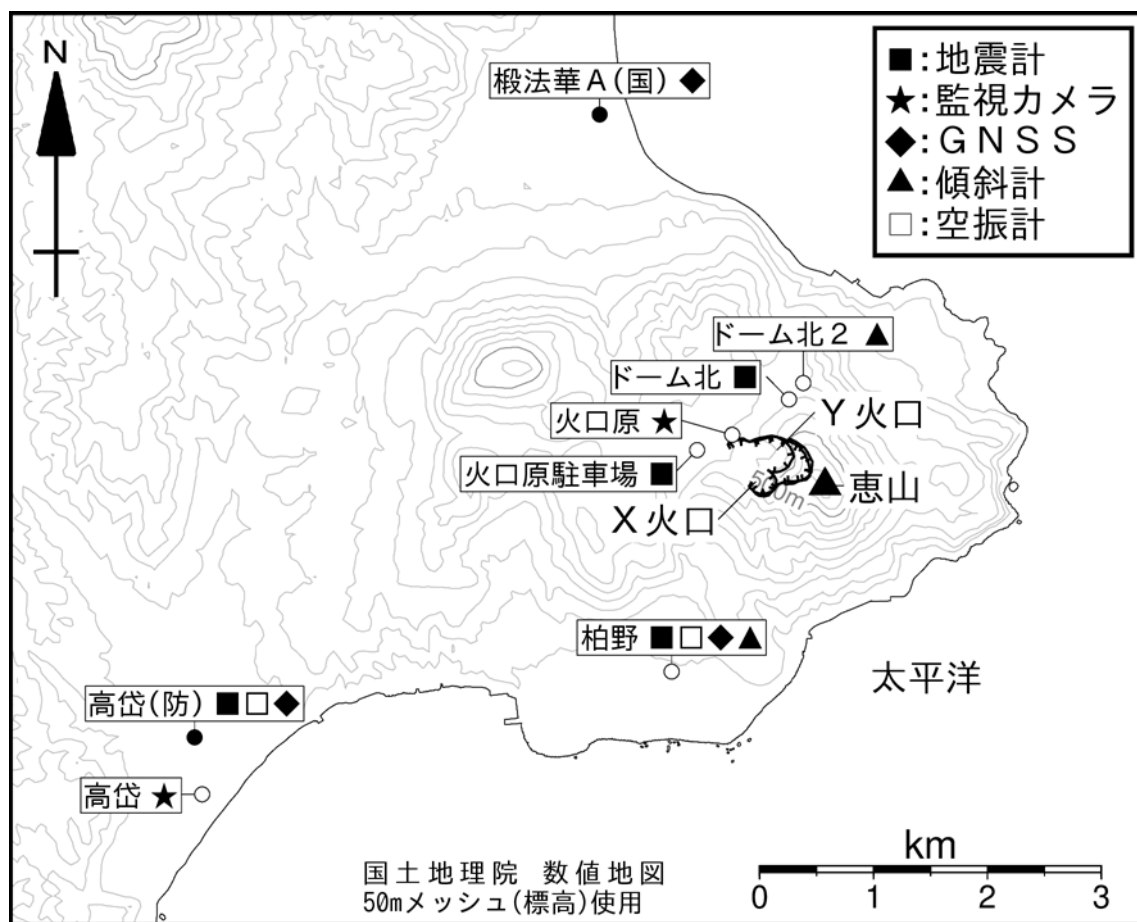
図2 恵山 火山活動経過図（2005年7月～2026年8月6日）

グラフ枠は2026年8月31日までですが、描画しているデータは8月6日までのものです。

④の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。

⑤のグラフは上図の基線に対応しています。

⑤のグラフの空白部分は欠測を示します。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所

図3 恵山 観測点配置図